審査の結果の要旨

氏　名　　二　村　　悟

本研究は、茶産業の発展と建築の近代化との関係を、明治期以降に茶の生産が盛んとなった静岡県を例として論述したものである。

茶は、明治期の我が国の主な輸出産品のひとつであり、近代の産業において茶産業の占める地位は低くない。にもかかわらず、茶産業にかかわる建築の研究はこれまでほとんど行われていない。本論文は、栽培から製品となるまでの茶の工程に注目することにより、茶産業にかかわる建築を具体的な事例に基づき網羅的にとりあげており、建築学上の意義が深いものである。

本研究は、近代の産業建築に関する研究としても注目される。近代の産業建築に関する研究は、文化庁による近代化遺産総合調査や国立科学博物館・清水慶一の研究等によってはじめられたばかりであり、方法論が確立しているとは言い難い。そのなかで本研究は、産業の生産工程に注目したことによって各種の建築を検討するという研究の一方法論を提示した点で、評価すべきものといえる。同様に、本研究は、生産工程に注目したことによって、工場建築と機械との関係を明らかとしており、工場建築に関する新たな研究の視座を提示した点でも価値あるものといえる。

本研究は、民家研究としても注目できる。従来の民家研究では、母屋が主な研究対象であり、農村と都市部（農家と町家）で別に研究が行われる傾向にあった。これに対して本研究では、生産工程に注目したことによって、農村部と都市部を同時に扱っており、これまでの研究でほとんど扱われていなかった畑、附属屋、建築の設備等についても研究が及んでいる。この点から本研究は、これまでの民家史研究の欠落部分を補い、新たな視点を与えた研究としても評価できる。

本研究は都市計画の研究としても、特筆すべき点がある。都市計画の歴史的研究は、これまで国や地方公共団体といった公共が主体となった計画を中心に進められてきた。本研究では、茶産業に関わる人々が主体的に計画に関与した事例を示しており、関連分野の研究に貴重な資料を提供している。

このほか、本論文の成果は、茶産業に関わる歴史的建造物の文化財としての保存や、茶産業建築を利用した地域振興への取り組み方に貢献できるものである。

以上の通り、本論文は建築学の研究として十分な成果をあげており、意義あるものといえる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。